

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2023 年版

日本泌尿器科学会編

腎盂・尿管癌診療ガイドライン改訂委員会（委員長:大山 力 弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座）

医学図書出版、2023 年 6 月 30 日 発行

Minds 掲載 有

■1 アリストロキア酸を含む漢方薬

疾患:

漢方薬腎症（副作用）

引用など:

- 1) Cosyns JP. Aristolochic acid and ‘Chinese herbs nephropathy’: a review of the evidence to date. Drug Saf 26 : 33 - 48, 2003
- 2) Grollman AP. Aristolochic acid nephropathy: Harbinger of a global iatrogenic disease. Environ Mol Mutagen 54: 1 - 7, 2013

副作用に関する記載ないしその要約:

総論『Ⅰ 上部尿路上皮癌の疫学』に下記の記載がある。

『アリストロキア酸はウマノスズクサ属植物に含まれる成分で、上部尿路上皮癌だけでなく、膀胱癌、腎細胞癌、肝細胞癌、肝内胆管癌の発生においても危険因子となる。この植物は伝統的に台湾や中国における漢方薬治療において使用されており、本邦で承認された生薬では問題とならないものの、上記地域での漢方薬腎症と上部尿路上皮癌の発生に関与している。』